

第31回

うつのみやこども賞だより

平成26年度 5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『あしたも、さんかく』

安田夏菜／著（講談社）



～読んだ本の感想より～

- 私は○と×しか無いと思ったけど、『さんかく』という考え方もあるんだなと思いました。
- 最後がとてもよかったです。たしかに、自分も△だなと思いました。落語がもっと好きになりました。
- じいちゃんの人生とさくらんぼが面白い程に一致していた。特に最後の変えられた所のフレーズが益々感動した。
- 圭介がだんだん落語という世界に入り込んでいくとい

うストーリーが印象的だった。

- 落語が目前でしゃべっているかのように表現力がすごかったです。
- じいちゃんの落語が聞きたくなりました。

『夏の朝』 本田昌子／著（福音館書店）

- 少しずつ過去のことがあきらかになっていくのがおもしろかった。ストーリーがドラマチックで、一回一回タイムスリップしていく時代が昔になっていくので、あきずに読めた。
- 莉子の気持ちが表れているところを読みとるのがおもしろかった。
- 色々な登場人物がそれぞれ違うおもしろさがありました。
- 文章だけで情景を想像できた。方言だから分かりにくいはずなのにとても理解しやすく驚いた

『なりたい二人』 令丈ヒロ子／著（PHP研究所）

- 自分の思っていることを外に出すのは勇気がいることだと思います。私もこの二人のように、なやむことはあるけれど、外に出していいんだなと思いました。
- それぞれが本当のことをうち明けて、とても前向きで明るいお話でいいなと思った。二人の自然な会話も読んでいておもしろかったです。
- 私もまだ将来の夢を決めていないので、ちえりみたいに夢を決めて目標にむかっていきたいです。
- この本を見てなんか夢が見えたような気がしました。

『妖怪の弟はじめました』 石川宏千花／著（講談社）

- おどろいたり、こわい思いもしているけれど、妖怪の兄ちゃんがいるのはなんだか楽しそうなのでいいなと思いました。
- 人間と妖怪が仲良くなっていくストーリーが簡潔にかかれていて、読みやすかった。
- 個せいの強い妖怪がおもしろかったです。
- この本を読んでわたしも妖怪と会ってみたいなと思いました。

2014年10月5日